

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	おいし(有)
(ユニット名)	グループホーム おおいし
所在地 (県・市町村名)	長崎県雲仙市愛野町
記入者名 (管理者)	徳永江美子
記入日	平成 19年 7月 11日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎月10日、運営者、管理者、職員、パートも含め全員で会議を行っている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には訪問時や運営推進会議等、折り触れ繰り返し伝え、地域住民の方には、ホームイベントや見学等でわかりやすく説明したり、地域イベントや集まり会の参加のほか、折触れて事業所の実践を伝えていけるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりして近隣に住む人達とのふれあう機会は多い。時には、野菜の差し入れなどがある。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の文化祭やお祭り等には、利用者とともに積極的に参加している。また、地域の保育園の園児と利用者との交流や小、中、高生徒の職場体験学習などのボランティアの久保あきらさんと呼んで懐かしの歌を聴くなどもしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームでの記念食事会(3周年記念)に老人会や町内会長、地域広域介護課の職員の方を招き、交流している。		
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにして、改善に向けての具体案の検討や実践につながる為の努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への積極的な参加への呼びかけをしている。利用者の全家族9名、老人会2名(会長、副会長)、町内会長各2名(小無田町、境ノ町)、地域広域介護課の職員1名、ホーム職員3名で、取り上げられた検討事項や懸案事項についてやその経過を報告し合い、一つ一つ積み上げて行くようにしている。現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉事務所へ行き、利用者の状態、同居者の相談をしている。		必要時に行政担当者の訪問をしてもらったり、市町村の居宅事業を受け入れこちらから積極的に働きをしていけるように、会議等で話し合いをしていくようにしたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今の所、そういう事例がない		今後、職員等に成年後見制度・地域福祉権利擁護事業の研修・講習等に参加し、対応が必要と思われる利用者がある場合に、説明、アドバイス等が出来るようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者・管理者が日々の職員、利用者の行動を見守り、把握している。		研修・講習会等の参加を職員全員に、順番に行っていくたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとって丁寧に説明している。利用料金や起こりうるリスク、医療連帯体制の実際などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行い、利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、本人を交えて家族等と対応方針を相談している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその想いを察知する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。その時々利用者の不安、意見等は朝の送りの時や会議等で話し合いを行い、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問時には、写真や行事報告をしたり、ケース記録や出納帳等に、サインを頂くようにしている。誕生日会、旅行等の参加を呼びかけしている。</p>	<p>今後は、担当スタッフが家族便りにて現在の報告をして、電話や写真などで様子を知らせたいと思っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の訪問が多く、意見・希望を日常の会話で引き出す工夫をしている。また、手紙や電話、運営推進会議等だ常に問いかけたり、何でも言ってもらえるような困気づくりに努力している。出された意見、要望等は朝の送りの時や会議等で話し合いを行っている。</p>	<p>直接言えない時の事を配慮して、玄関などに意見箱を置くように検討したいと思います。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月10日は運営者、管理者、全職員、パートも含めて会議を行い、意見を聞くようにしている。日頃から職員とのコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけて、聞き出したりするようにしている。個別相談は、その時その時状況を見ながら行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間を7時～16時・8時～17時・9時から9時・9時～13時・13時～17時と朝・昼・夕の忙しい時間帯や通院・受診・リハビリに必要な時間や外出時は多く配置し利用者一人一人に目が行くような勤務体制を作るようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、職員を固定化し、ご家族への信頼関係を築く為にも、顔馴染みの職員が対応する事が重要と思っている。異動や離職がやむお得不い場合も、その期間や引き継ぎの面でも努力している。新しい職員が入る場合も、利用者きちんと紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員やパートにも、学習会や研修会、報告会等に順番に参加させるようにしている。各資格取得にも力を入れて取り組んでいます。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームへの研修を設けたり、施設見学等を行っている。グループホーム協議会に加入している。互いに情報交換を行っている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の過労やストレスの要因について気を配り、職員・パート同士の食事会を行ったり旅行等で親睦を深めたり人間関係を把握するように努めている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日ホームには来ている。利用者と散歩をしたり、ドライブ、外出をして過ごしたりしている。職員の資格取得、講習、研修に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境を作りにも努めている。職員の業務、悩み等に応じられるように個別面談も行っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者さんから相談があった時は、必ず本人さんの事を思い向き合い、心身の状態いにも気を配り配慮して、職員が利用者を受け入れられるような人間関係作りに努めている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が今何に困っている事や不安な事や求めている事を、十分に把握し理解して、事業所としては、どのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族からの思いや意見、状況等を確認しながら、改善に向けた支援の提案、早急な対応が必要な相談には、可能な限り柔軟な対応を行っている。他の施設(デイサービス)グループホーム等の見学を説明している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらい事から始め、スタッフが自宅に向かい、遊びに来てもらったりする事を繰り返しながら、事業所での生活が安定するのを見極めて安心、安定的な利用に移行している。また、運営者、管理者、職員は外部からの他人から学ぶ姿勢を忘れずに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々の人格を尊重しながら、「想」を念頭に置き、変わらない介護に心掛け、さりげない介護の努力をしている。利用者個々の記録、メモを取り、職員全員が利用者の状況を把握出来るようにもしている。記録等は、目に触れないように戸棚に保管し、留意している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営者・管理者・職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、利用者と一緒に支える為に家族と同じような思うで支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用が終了されても、ご家族の相談や訪問は継続して行っている。		利用が終了された方やご家族の方にも、ホームの行事に招待して、遊びに来てもらう等の継続的な付き合いがもつと出来るようにしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人等に遊びに行ったり、今まで通ってた、温泉や施設、食事所の継続的な交流が出来るようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	基本的に利用者の仲は良いが、難聴によるトラブルが発生する事があるが、職員が介入の是非を把握し、時には紙やボードを使い伝えるなど、過剰介入にならないように支援している。みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる画面作りをしたり、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援して、毎日のおやつや食事の時間は職員も一緒に食べたり、多くの会話出来るようしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院されても、常にお見舞い、見守りを行うようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、何かしらの行事を1ヶ月前から予定を組むなどしている。買い物・外食・日帰り温泉・一泊旅行・季節ごとの見学等、可能な限り実行している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の中には、お花の先生をしていらした方には、生け花の指導チェックを受けたり、几帳面な方には洗濯物たみをしてもらうなど、個々の生活歴からその人らしさを引き出し「活き活きさ」に向けて援助を組み立てている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、出来る事に注目して全体像を把握するようにしている。		
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当職員を配置して、状態を把握した上で、利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望や思いや意見等を聞き、反映されるように、アセスメントを含めて職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間は状態変化で異なるが、安定している利用者は、長期目標を6ヵ月・短期3ヶ月に設定し、見直し・評価を行いながら次の目標に生かしている。また、ご家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直しや状態が変化して際は、終了する前であっても検討見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルと別ファイルを用意し、食事・水分量・排泄・入浴・体重・薬等身体状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等の記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしており、勤務前に確認を義務付けている。確認した際は、サインを書くようにもしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今の所行っていない。		今後、多機能性を活かした支援を、職員会議・運営推進会議等で検討するようにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとして、近所の方が書道を教えに来られたり、大正琴や歌手の久保あきらさんの歌を聴いたり、地域の保育園・中・高生徒の体験学習を受託したり、年に2回、消防・非難・消火器訓練も行っている。		本人と地域とのさまざまな接点を身出し、周辺施設等への働きかけを行っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリなど、医師と話し合い、サービスの利用を支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域広域介護職員等の協力はあるが、地域包括支援センターの職員との協働はしていない。		今後、地域包括支援センターの職員の方にも、運営推進会議に参加してもらうように声かけし、周囲情報や支援に関する情報交換・協力関係が築いていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにして、通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を結んでいる。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	外来受診で医師に職員が相談して、支持を受けるようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じて支援を行えるようにしている。看護職員がいない時は、介護職員の記録を元に確実な連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、ホーム側で医療機関と連絡を取り合い、病院には毎日お見舞いに行き、洗濯物や必要物品等を持っていくなど、協力体制を整えている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を定め、家族・医師・看護師・ケアマネジャーを交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払いながら、支援に努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の対象者該当者がいない。		今後、本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいき、急変して場合にも、すぐに対応して頂けるように、医療機関との密な連携を図れるようにしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境、ケアカンファレンスや支援状況等を手渡すと共に情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って訪問に行くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわまいように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮し、他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する事を話さない事を徹底し、採用時に証明して同意を求めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>利用者に合わせた声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読み取り紙やボードを使用し納得されるように支援している。職員側で決めた事を押し付けないようにし、利用者が自分で決められるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩・散髪や美容院等、一人一人の状況や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援を心掛けて行くようにしている。利用者の希望する理容・美容室への支援。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>1日・15日は赤飯・及びランチメニュー等で誕生日会や行事の食事を準備し、利用者の状態に合わせて刻み食やカロリー制限食を提供しており、その人に合わせた食事の準備をしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者の好きな物を理解し、食事やおやつ等に取り入れたり、外食時には、お酒の好きな方はお酒を楽しまれたり、食後や入浴後には、ジュース・アイスクリームを楽しまれたりできるように、支援している。利用者が好きな、あめ・飲み物・赤汁・青汁等を好きな時間に飲めるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握したり、排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも、時間を見計らって誘導する事でトイレで排泄出来るように支援している。下着に尿とりパットのみや状況に応じてオムツを使用している利用者にも、排泄パターンを把握して、トイレでの排泄に心掛けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回入浴である。毎日お風呂の準備はしている為、希望される方や体調がいい人は入浴している。男性は同じ日に組むなども取り入れ、入浴前は、血圧・体温・脈・体重お量り、健康状態をチェックしている。		今の所夕方の入浴はしていないが、希望者がいた時は、入浴可能にさらるように、検討したいと思っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の生活を促し、生活リズムを整えるようにしている。また、一人一人の体調や表情、希望等に配慮しながら、支援している。日中は、散歩・買い物・体操や外出などを行い、昼夜逆転しないように生活リズムを整える工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・配膳準備・後片付け・カレンダーの張替えやモップがけ・生け花・交換などを一人一人の力に合わせ発揮出来るように、お願い出来るような仕事を積み、その都度、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金を持つ大切さを理解し、力に応じて、小額ではあるが自己管理をしいえもらうようにしている。ホーム側でおおよその金額を把握し支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩したり、買い物やドライブ、外食やお弁当を持って戸外に出かけたて季節を肌や目・耳・匂いを感じてもらうように本人の気分や希望、体調に応じて対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出は、1ヶ月前から職員で検討し計画を立て、職員の勤務を調整したり、利用者全員が参加出来るように体調管理を行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用については、特に、時間の規定はない。利用者が希望された時に対応して支援している。また、他の利用者や職員に聞こえたくない人は事務所兼休憩室の電話を使用可能としている。また、手紙もいつでも出されるように、切手やはがき、便船等の準備しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に、面会・訪問時間の取り決めはない。誕生日会・旅行などのホーム行事には必ずご家族の参加もあり、呼びかけも欠かさず行っている。また、友人・知人等にも呼びかけ等も支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを実践し、重要事項説明書で利用前に、利用者のご家族に説明し、同意を得ている。		今後拘束するような行為がないように、職員会議や朝の送り時等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われられないかを点検するようにしたいと思っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や窓は日中は鍵をかけてはいない。利用者が一人で外出しそうな様子を察知したり、さりげない声かけをして一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。また、ホーム内に職員が少ない時は、玄関前のドアに鈴を置き、ドアが開いたら鳴るようにしている。事務所からも訪問者や外出者が確認できるようにもなっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく利用者全員の状態を把握するように努めている。夜間は、数時間ごとに利用者の様子観察をするとともに、起きられた時にすぐに対応できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員は注意の必要な物品を理解して、包丁は見えない戸棚に保管し、洗剤は高い場所に置くようにしている。また、その他の、物品等も、なるべく利用者の目に留まらない所に保管するようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が、2年に一回応急救護の勉強会(実技も)を実施し、体験・体得・習得するようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を経て通報訓練・避難訓練・避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ホームに来られて時、その都度変化など説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、食事の摂取量や顔色、様子等の変化が見られたときは、バイタルチェックを行い、変化時の記録を付けている。看護師等の判断と状況によって病院受診につなげている。バイタルチェックは、一日三回(朝・昼・夜)行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の会議で、看護師による医療連絡表をもとに、病状と服薬の変化と内容について説明し、職員に周知徹底している。内服薬は、外からは見えない棚の中に保管し、一日の内服薬のみを出して、医師の支持どおり服薬できるよう支援している。薬の飲み忘れがないように、チェック表に記入し、薬を準備した職員のサインも書くようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、利用者本人に排便チェックを行い、観察出来る時は観察している(便の量・状態等)。便秘の方には、医師から処方された便秘薬を服薬してもらっている。なるべく薬で出すのではなく、体操や散歩、マッサージ等が出るように支援している。ホームの食事も栄養士が、バランスの取れた献立を立てている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事後は居室で自主的には歯磨きを行う習慣をつけているが、最終チェックは職員が行うようにしている。義歯や口腔内の状態を2ヶ月に一回、定期健診をかかりつけ歯科医により行うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に摂取量を書き把握し、栄養バランスやカロリー計算等、栄養士により管理している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	散歩後・外出後・食事前、おやつ前、トイレ後等は、必ず手洗い、うがいを徹底している。手洗い後は、必ず消毒液で消毒するようにしている。職員や訪問者の方にも感染症対策として、ホーム内に入るときは消毒してもらう様にと、玄関やトイレ等にも消毒液を置いている。利用者・職員(パート含む)全員、インフルエンザの予防接種を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾・まな板はハイターで消毒し、冷蔵庫はヒビテン液で消毒するようにしている。新鮮で安全な食材を使用する為、一日で使う分だけを買うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には手作りのものを飾ったり、生け花を置いたり、ホームで行った行事の写真を飾ったり、荷物を置いてひと休み出来るように、ベンチを置くなどをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯が炊ける匂い、鍋料理やヨモギもち、桜餅など、五感や季節感を意識的に取り入れたり、フロアの飾りつけの配置等を、利用者と一緒に考えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには利用者同士で話ができるように、ソファーや椅子、小さなテーブル等を置いてテレビを見たり、くつろげるスペースを作っている。又、ホーム内に畳のある空間もあり、いつでもくつろげるスペースも設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは、許可している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いがある時は、空気の入替えを意識的に行うようにしている。温度調整は、外気温とあまり差がないように自然に近い状態に調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、必要に応じて廊下やお風呂に手摺りを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者のお金を持つ大切さを理解し、力に応じて、小額ではあるが自己管理をしいえもらうようにしている。ホーム側でおおよその金額を把握し支援している。各居室の利用者本人の顔写真を目印として貼り、お風呂・浴室・トイレと表示を表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、木を植えたりして、利用者が季節を感じれたり、楽しめたりできるようにしてり、玄関先にベンチを置いて、利用者が涼しんだり、日向ぼっこができるようにしてり、車椅子の方でも外で空気や景色を楽しめるよう、ウッドデッキ等を活用している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・それぞれの季節の花の見学や外食、温泉入浴等、利用者が楽しめるように取り組んでいる。
- ・ホームの周りは自然が一杯で季節の移り変わりを感じられ、散歩にも最適な環境である。
- ・理容院や美容院等、本人が希望する所に連れて行っている。
- ・本人の趣味を発表できる場を提供している。(町文化展)
- ・地域住民の方とつながりが拡がり、差し入れや訪問も増え、気軽にあいさつをしたり、お話ができ、地域住民との交流がたくさんあります。